

関西フィルと協演するソリスト選考オーディション ライジングスター・プロジェクト2025

関西・大阪21世紀協会×関西フィルハーモニー管弦楽団 共催事業
トヨタモビリティ新大阪株式会社寄付



将来活躍が期待される関西の若手演奏家の発掘と成長を促すことを目的に、公募によりオーケストラと協演する機会を提供しようと昨年から始まった「ライジングスター・プロジェクト」。2年目を迎えた今年も多くのエントリーがあり、8月25日、関西フィルの本拠地・門真市民文化会館ルミエールホールでオーディションが実施され、10名のファイナリストの中から、17歳の吉村佳莉風さんが見事ライジングスターに選ばれました。

2025年度 ライジングスター誕生！

非常にレベルの高い戦いとなった今回のオーディション。昨年は該当者が出なかったライジングスターに輝いたのは、プロコフィエフの『ヴァイオリン協奏曲第2番』で挑んだ吉村佳莉風さん。曲の特徴をよく理解した素晴らしい表現が評価され、来年8月に行われる「Meet the Classic Vol.50」への出演を勝ち取りました。他にも、優秀賞に亀岡航紀さん（トロンボーン）と山田唯雄さん（クラシックギター）が選ばれ、審査委員長の藤岡幸夫さん（関西フィル総監督・首席指揮者）より、「Meet the Classic」以外の演奏会で必ず協演する機会を設けると発表がありました。



受賞者と審査員の皆さん

吉村 佳莉風さん

17歳（ヴァイオリン）
東京藝術大学音楽学部附属
音楽高等学校3年生



楽器も年齢層も幅広いコンテストで少しハードルが高いかと感じていたので、選ばれて本当に嬉しいです。本番に向けてオーケストラの皆さんと対話できるような音楽づくりを目指して、お客様に私の音楽をしっかり届けられるよう真摯に向き合っています。

優秀賞

亀岡 航紀さん

27歳
（トロンボーン）
関西フィルハーモニー
管弦楽団 トップ奏者



オーケストラで吹くことと、ソリストとして演奏することはバクトルが違います。その違うバクトルで勝負して評価を頂いたことは、大きな自信になりました。



山田 唯雄さん

30歳
（クラシックギター）
ワイマール
フランクフルト音楽大学
演奏家資格課程在籍

ギターはコンクールで優勝しても注目される機会が少ない楽器です。すべての楽器に開かれた今回のようなオーディションで評価され、しかもコンサートをしようにというもらえて希望を感じました。

「Meet the Classic Vol. 50」で協演

開催：2026年8月9日（日） 会場：住友生命いずみホール（大阪市中央区）

主催：関西フィルハーモニー管弦楽団 共催：関西・大阪21世紀協会（トヨタモビリティ新大阪株式会社寄付）

関西の優れた才能に飛躍のチャンスを ライジングスター・プロジェクトに 込めた思い



『特別対談』

関西フィルハーモニー管弦楽団
総監督・首席指揮者

藤岡 幸夫 氏



関西・大阪21世紀協会
理事長

崎元 利樹



今年、関西からノーベル賞受賞者が2名輩出され、あらためて関西の学術研究の革新性が注目されました。文化・芸術分野においても、関西には優秀な人材が育つ土壌と高いポテンシャルを持った若者が多くいます。ライジングスター・プロジェクトは、そんな高い志と卓越した技量を持つ若い演奏家に、関西から世界に羽ばたくチャンスをつくります。

ソリストを選ぶ眼

崎元 ライジングスター・プロジェクトでは、2年目にして待望のライジングスターが誕生し、とても嬉しく思っています。同時に、演奏家として高いレベルにあっても、オーケストラのソリストとなると、さらに突き抜けた実力や実績が求められるというクラシック音楽界の厳しさも知りました。

藤岡 甘くないですよ、演奏会のソリストになるというのは。関西フィルと協演するソリストは、国際コンクールで優勝するような実力を持った一流の演奏家ばかりです。特にライジングスター・プロジェクトは、そんな私たちが25年間ずっと大切にしてきた「Meet the Classic」で大勢のお客様を前にデビューするわけですから、とりわけ厳しく選考しています。ですから残念ながら初年度はライジングスターの該当者はありませんでした。

ハイレベルで拮抗

崎元 オーディションの審査にあられた藤岡さんは、今年度の挑戦者をどのようにご覧になっておられますか。

藤岡 ライジングスターに選ばれた吉村佳莉風(かりな)さんは、国際コンクールに出ても上位の成績を上げられると確信できるほど、レベルが高く、これからが非常に楽しみ。

惜しくも優秀賞となった二人、関西フィルの楽団員でもある亀岡航紀(こうき)さん(トロンボーン)も実力があり、国際コンクールに出れば、いい線行くと思いますね。クラシックギターの山田唯雄(いお)さんにいっては、すでに数々の国際コンクールで優勝して世界的に高く評価されているだけでなく、テレビの音楽番組にも出演している実力者です。また、選外となった人でも、ハイレベルな人たちが多かったです。

崎元 上位3人の実力は高いレベルで拮抗していたんですね。

藤岡 そうです。その中で、まだ17歳と若い吉村さんを、今後の期待を込めてライジングスターに選びました。

崎元 こうした人たちに続いて、今後もスター性のある若い演奏家の誕生に期待しています。

藤岡 そのためにはライジングスター・プロジェクトをもっともっと周知していくことが大事ですね。プロジェクトの初年度は、メディアを集めて記者発表したり、関西フィルでも宣伝したりするなど、広報に力を入れました。その甲斐あってオーディションには80名もの応募者がありました。今年度は数こそ及ばせませんでした、そのレベルは前回に増して高かったです。ソリストを目指す若い人たちは、このプロジェクトの存在や意義をちゃんと知っていて、これに

懸けていることが見て取れました。だから、来年はさらに宣伝していかなくちいけないと思っています。

関西で優れた演奏家が育つ

崎元 関西には、才能と実力を持つ演奏家がたくさんいるということですね。

藤岡 その通り。世界的な弦楽器のソリストには関西出身が多い。例えばヴァイオリンでは、神尾(かみお)真由子さん(大阪府豊中市出身)や木嶋真優(きしままゆ)さん(兵庫県神戸市出身)がおられますし、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の第1コンサートマスターを務める榎本大進(かしもとだいしん)さんは、生まれはロンドンですが、お母さんの故郷である兵庫県赤穂市でも活動をしています。

崎元 どうして関西から優れた演奏家が多く出るのでしょうか。

藤岡 なんといいても、関西には優れた指導者が多くいらっしゃるからです。神尾真由子さんを育てた小栗まち絵さんや工藤千博さん(2009年没)しかり。奈良にも岩谷悠子さんなど、優れた指導者によって、多くの若いヴァイオリニストが育ち世界で活躍しています。そして、何より関西にはプロを目指している若い演奏家がたくさんいるんです。オーケストラの話をする、プロのオーケストラは、公益社団法人日本オーケストラ連盟(東京)に正会員として加盟していて、この正会員は確かに東京の方が多いのですが、準会員のオーケストラは関西の方が多いんです。これは、音楽大学を卒業して将来はプロとして活動したいという人が多いということ、とてもいい傾向だと思っています。

関西回帰の土壤づくり

崎元 なるほど。優れた指導者も多く、音楽の道を目指す人たちの多いということですね。ただ、一方には若い演奏家の多くが東京へ流出してしまうという残念な現状があります。

藤岡 その原因は、単純に人口の差です。東京の人口はおおよそ1,400万人で、大阪は870万人あまり。仕事量でいえば、東京の方が圧倒的に多い。高い給料を出すオーケストラも多いですから、そこで働きたくなるのは当然といえます。こうした仕事量の差は、どうしようもない現実です。東京は住宅費が高いですから、今後は大阪に住んで東京で稼ぐというソリストも出てくるかもしれません。だから海外や東京で研鑽を積んだ人たちが、再び大阪・関西に戻ってくるような土壤をつくるのが大事で、音楽を目指す若い人たちの思いを受けとめて支えるシステムを用意しなければならないと思っています。

崎元 どのような土壤を作ればよいのでしょうか。

藤岡 今年、私が関西フィルの総監督になってまず取り組んでいるのが、楽団員の給料を上げるなど、待遇面での改善です。レベルの高いオーケストラとして永続的に活動していくためには、プレーヤーの高い実力に見合った給料を払い続けること、つまりシステム化が絶対条件です。そうして良いプレーヤーが入ってくことで、音楽的にもさらに上を目指していくことができます。そのためには資金が必要で、幸いなことに、関西フィルには資金面で支援くださる大手企業様がいくつもあって、大変感謝しています。私が関西フィルと関わるようになって四半世紀経ちます。

優秀賞3名が関西フィルと夢の協演 ライジングスター・プロジェクト2024 トヨタモビリティ新大阪株式会社寄付

主催:公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
共催:公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団



りん せい
林 成さん (チェロ)

演奏曲 ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調
作品104より 第1楽章

音量の大きなオーケストラに圧倒されそうになりましたが、それに負けない音量を意識して弾きました。人と合わせるときの呼吸やアイコンタクトの取り方など、コミュニケーションの重要性にも気づきました。今後はバロック音楽にも本格的に取り組み、作品の背景や様式に即した演奏を目指したいです。(東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校1年生。「第22回 泉の森ジュニアチェロコンクール」中学生の部、金賞受賞)



おおや ひびき
大屋 響さん (ヴァイオリン)

演奏曲 ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調
作品77より 第3楽章

大きなホールで演奏できて嬉しかったです。緊張しましたが、それ以上に楽しさや幸せな気持ちが勝って、あっという間の時間でした。藤岡先生からは、演奏家として生きるためのアドバイスもいただき、とてもありがたかったです。海外は未経験ですが、今後は、音楽の理解を深めるため、学びの場として海外に挑戦したいです。(相愛高等学校音楽科3年生。2024年に大阪府池田市で初のソリリサイタルを開催)



そこう ななみ
十河 七海さん (コントラバス)

演奏曲 ラーシュ=エリク・ラーション:コントラバス・
コンチェルティノ 作品45-11

藤岡先生から、「オーケストラは伴奏ではなく、一緒に音楽を作るんだから」といわれ、ソロではあるけれど弦楽合奏としての自覚を持ちました。最後はオケの皆さんを信頼し、もっと自由に音楽を奏でられることに気づき、自らの成長を感じました。プロとして信頼を得るため、演奏への熱量は変えずに仕事にも誠実に向き合っていきたいです。(東京藝術大学大学院修士課程修了。国内主要楽団への客演やソリリサイタルを開催)

つくづく感じることは、関西人は、良いものをいかに安く手に入れるかにこだわる一方、良いと思ったら、とことん応援して文化を育もうという気質があるということです。こうした皆さんからの信頼に応えるためにも、5年以内に関西フィルを海外や東京で学んだ若い演奏家が是非とも入りたいと思えるオーケストラに必ずしてみせます。

地方のオーケストラを全国区に

崎元 藤岡さんは、クラシック音楽のテレビ番組「エンター・ザ・ミュージック」(BSテレビ東京・毎週土曜朝8時30分放送)を持たれていますよね。

藤岡 2014年に放送を開始して、今年で11年目です。それまでテレビのクラシック音楽番組といえば、東京のオーケストラが出演するのが当たり前になっていました。私がかつてヨーロッパに住んでいて感じたのは、首都圏以外の都市でも経済的にも文化的にも豊かだということです。私は東京生まれですが、なんでもかんでも東京一極集中という状況はやめなきゃいけないと考えています。関西フィルのように、地方のオーケストラが全国放送で、しかもレギュラーで出演する番組はこれだけです。関西の優れたソリストや素晴らしいホールなどを全国の皆さんにもっと知っていただきたいという思いで取り組んでいます。

才能ある若者を支援

崎元 最後に、若い演奏家に向けてメッセージをお願いします。

藤岡 プロを目指して頑張っている若い演奏家の皆さんには、ぜひ海外へ行ってほしい。私が理事を務めている公益財

団法人山岡トロイメライ音楽財団(大阪市)では、大阪の若く優秀な演奏家に奨学金を出し研鑽を積んでもらい、将来海外デビューさせることを目的にしています。私も、優秀な成績を収めた奨学生には、関西フィルで協演すると約束しています。ライジングスター・プロジェクトでも、これをステップにして、そうした財団からの奨学金を得て、海外でさらに実力をつけて帰ってきてほしい。加えて、それを支援する制度がもっとできてほしいですね。

崎元 関西には若い演奏家が多く指導者にも恵まれている。そして、それを支える支援の輪も広がっているということで、関西のクラシック界の今後は大いに期待できそうですね。

藤岡 そうですね。先ほどもお話ししましたが、関西では、良いオーケストラ、良い指揮者だと認められれば、毎年のように演奏会の声がかかります。本当に良質だと分かれば、しっかり応援してくれるところが関西の文化度の高さといえるでしょう。大阪には4つのプロのオーケストラがあり、それぞれ強力なサポーターがついています。お互いに切磋琢磨してレベルを上げ、若い演奏家が関西に戻って演奏したいと思える土壌をつくっていききたいと思います。

崎元 今日、お話をお聴きして「ライジングスター・プロジェクト」の意義を改めて認識しました。若い演奏家の皆さんの活躍の場が広がり、関西フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする関西のクラシック界が、一段と活気に満ち溢れることを期待しております。本日はありがとうございます。

(2025年9月3日・関西フィルハーモニー管弦楽団〈大阪府門真市〉にて)

「Meet the Classic vol.49」 ほとばしる若き才能の響きと成長

2025年8月11日、住友生命いずみホール(大阪市)において、「ライジングスター・プロジェクト2024」の優秀賞に選ばれた3名が、関西フィルハーモニー管弦楽団との協演を果たしました。この日に備えて鍛錬を重ねた3名は、夢の舞台で堂々たる演奏を披露し、満員の会場から万雷の拍手が送られました。指揮を執った藤岡幸夫氏は、「オーディションから1年を経て、皆すごく成長した。エキサイティングな演奏に、若々しい情熱を感じた」と称え、若き才能の前途に期待を寄せました。



演奏を終えてほっと一息の皆さん
(左から)十河さん、林さん、大屋さん

藤岡 幸夫 氏

1962年東京生まれ。幼少よりピアノ、チェロを学ぶ。小学4年で指揮者になる夢を持ち、慶應義塾大学文学部卒業後、日本フィル指揮研究員に選ばれる。1990年英国王立ノーザン音楽大学指揮科入学(奨学金特待生)。1994年ロンドンにてBBCフィ



ルハーモニックを指揮してデビュー。(写真提供: 関西フィルハーモニー管弦楽団)

EU諸国の最も才能ある若手指揮者に贈られる「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」(1993年)のほか受賞多数。マンチェスター室内管弦楽団首席指揮者、日本フィル指揮者を歴任。2025年より現職。

公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団

1970年発足。2018年公益財団法人化。2015年に東大阪市と「文化芸術のまち推進協定」、2020年に門真市と「音楽と活気あふれるホームタウンパートナー協定」を結ぶなど、関西の人々や企業に育まれた楽団として地域密着を重視。関西出身の若手アーティストも積極的に起用。大阪府門真市末広町31-8 サンコオア第3ビル6階。